

学校だより

札幌市立厚別南中学校
令和元年 7月9日掲載
特別号

命の大切さを学ぶ教室

7月5日に体育館で、講師に白倉裕美子さんをお呼びして「命の大切さを学ぶ教室」として講演会を開きました。

講演でお話いただいた内容をまとめましたので、保護者のみなさまにもお読みください。そして、ご家庭でも、命の大切さ・尊さ、今家族と居られることのありがたさ、事故の恐ろしさなど、感じたこと・考えたことをお子さんと話してみてください。

演題:『交通事故の悲劇について』

講師 交通事故調書の開示を求める会
副代表 白倉 裕美子 さん

南幌町から来ました。白倉です。平成十五年交通事故で娘を亡くしました。私は講師の先生と言うより、普通の先生です。三人の子どもの母親です。家に帰ると普通の母親です。でも、唯一違うのは交通事故で子どもを亡くしたということです。みなさんが生まれる前、古い話です。でも、私にとっては最近のことです。

今日は命の大切さを学ぶということで、命がどうやって亡くなったのかということ、残された家族のこと、どうやって生きてきたのかということをお話します。

トラックは乗用車を抜き、時速百キロでした。追いついたあと、制御を失いました。自分の車線に戻ったあと、反対車線に飛び出し、路外に出ました。その停車した寸前に跳ねられました。つまり、トラックの走っていた車線と関係ないところで跳ねられたのです。

その後、私たちの元に電話が入りました。送り出してから十五分くらいでした。誰から来たのかは覚えていません。「すぐ病院に向かって下さい」というものでした。ちょっとしたけがだとのんきにしていました。交通事故を甘く考えていました。

一通り保険証を持ち、車で幌町立病院に行く途中、搬送病院が隣の市の大きな病院になったこと、心肺停止という状態だと聞きました。その時、とても恐ろしくなり、身体が震え、歯がガタガタ鳴りました。さっきまで笑っていて、美味しそうにご飯を食べ、学校の話をしていました。どこかで大丈夫だという思いがありました。そんな思いを持ちながら病院に行きました。病院について、走って行きました。血が出ていました。母が「みさが、死んじゃうよ」と言っていました。それでもまだ私は大丈夫だと思っていました。処置室に行きました。すぐに会えると思っていましたが、ドアが閉まっていた。ドアの前でただ待ちました。中で何が行われているのか、全く分かりませんでした。処置室のドアの隙間に口をつけて、みさと呼びました。頑張れと言いました。ずっと声をかけ続けていました。きっと私の声が届くと思いました。処置室のドアが開きました。対面したみさは、呼吸器をつけていました。その音だけがシューシューシューと響いていました。身体は温かかったです。しか

し、目を開けてくれません。指先に刺激を与えました。「分かったら動かして」という思いで刺激を与えました。何度やっても、指先が動きません。足をさすっても動きません。声に応えてくれることはありませんでした。

病院の先生から説明がありました。「お嬢さんは救急車で運ばれてきたとき、すでに意識レベルが低く助かる見込みはありませんでした。」「呼吸器を動かしているのは、中学生にとって、その両親にとって冷たい身体に触るよりも、温かい身体に触れるようにするためです。」と言われました。頭蓋骨や身体中の骨が折れていました。「家族が温かいみさに触れるように」と言われたときに、言葉では言えないほどの絶望感を感じました。

将来英語を使った仕事をしたい、だから英検を受けたい、英語を使って仕事をしたいと言っていました。結婚もしたいと言いました。みなさんも考えたこともないと思います。みさも考えたことはないと思います。たった一人のルールを破った人に、命を奪われました。家族はばらばらになりました。下の子に何もする気にならず、面倒を見ること、食事を作ることでもできなくなりました。みさは、もう笑うことも話すこともできなくなった、そう考えるとなぜ私はお腹が空いたと思うのだろう…など生きていることに嫌悪感を抱きました。倒れて救急車で運ばれて、たくさんの人に迷惑をかけました。それほどショックでした。でも辛いのは私だけではなかったのです。それに気づくのに何年もかかりました。

どうしたら事故はなくなるのか、考えます。ルールを守ることに加え、何が足りないのかと考えます。優しさや思いやり、想像力をみんなが持つことで事故を減らすことができると思います。一呼吸置く、思いやりの行動、自分がこうしたらどうなるかという想像力を持つことなどと考えたりします。もしそれをみんなができたら事故は減ると思います。

身近なところでいじめもあります。これを広く伝えたいと思います。今は自転車も凶器になるんだよ、安全に乗らないと凶器になるんだと思います。

みなさんがこうやって学校に来ていること、友だちと一緒に居られること、家族と居られることは大切なことです。私たちは一瞬の出来事でできなくなりました。全員が帰ってくるものがなくなりました。家族がそろって食事をするものはなくなりました。意見を言えることはすごく幸せなことだと思います。「ただいま」この言葉を大事にしてほしいと思います。この言葉には「今日一日何もなかったよ」「無事に帰ってきたよ」ということです。これを大事にしてほしいと思います。そして家族が帰ってきたら、お帰りと言ってほしいと思います。わたしがいくらみさに言っても、答えは返ってきません。